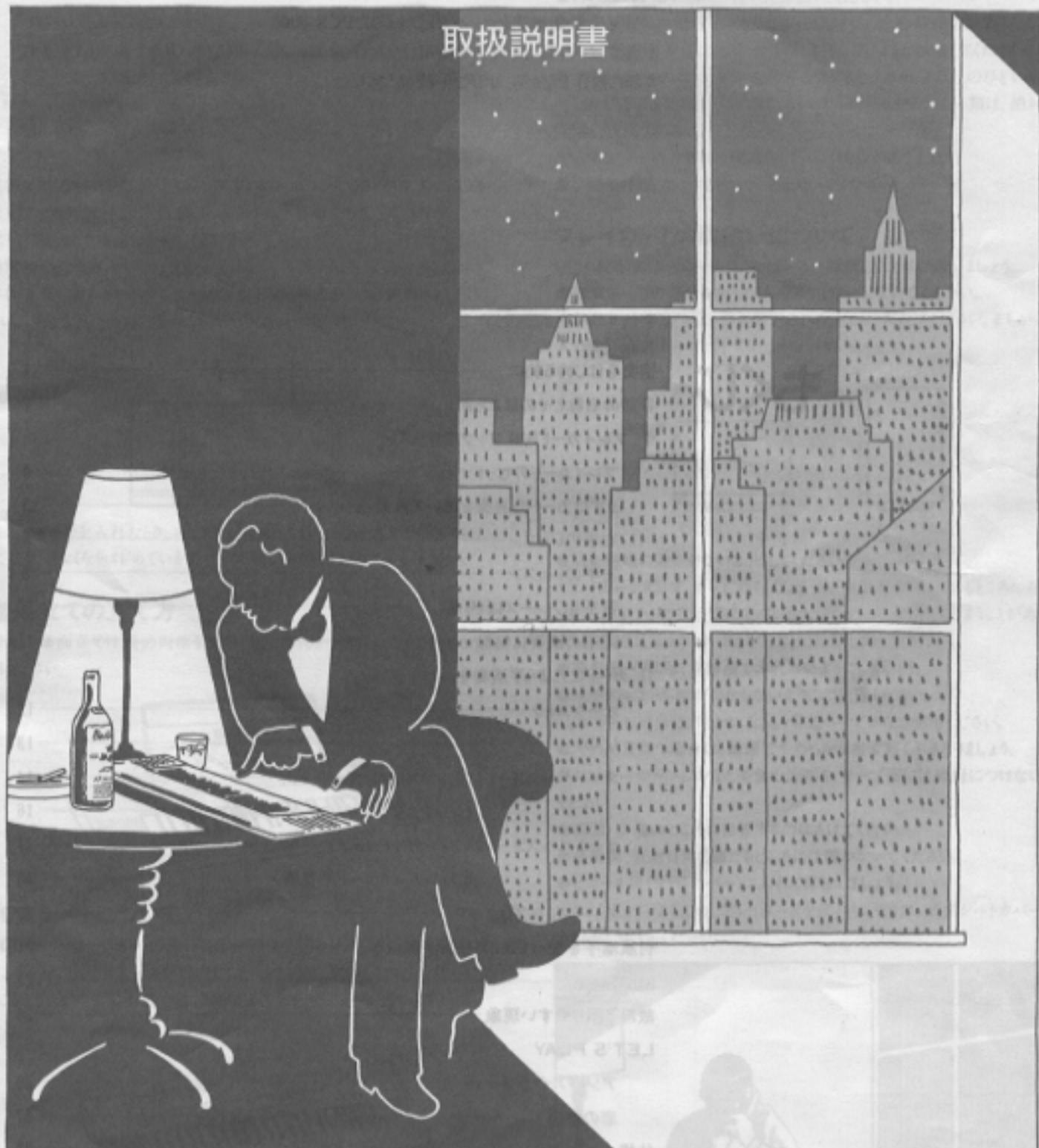


PORTATONE

PCR-800

PLAYCARD SYSTEM

取扱説明書



YAMAHA

ごあいさつ

このたびは、ヤマハポータートーンPCR-800をお買い上げいただきまして、ありがとうございます。

PCR-800は、楽器づくりの経験ゆたかなヤマハが、世界に誇るデジタル技術を駆使してつくりあげた鍵盤楽器です。

ポータートーンの高級モデルとしての充実した表現機能に加え、永年にわたって音楽を見つめてきたヤマハならではのプレイカードS.S.ブックシステムを搭載。基本から段階をおって、手軽にキーボード演奏の独習ができます。また、デジタル楽器の統一規格、MIDI端子を装備。シンセサイザーやコンピュータとの接続により、より高度な演奏をお楽しみいただけます。

いろいろな最新機能をコンパクトにまとめたPCR-800。

本書ではその魅力を充分ご活用いただけるように、正しい取り扱い方をご説明しています。実際に操作しながら、ぜひご一読ください。

もくじ

	ページ
演奏をはじめる前に	1
各部の名称とそのはたらき	2
I. プレイカードS.S.ブックでレッスン	
プレイカードのセット	4
まずはカードの演奏を聴いてみましょう	5
右手のレッスン	6
左手のレッスン	8
苦手なフレーズはくり返し	10
両手の演奏に挑戦	11
II. カードにたよらず演奏を	
オーケストラ	12
リズム	13
オートベースコード1〈シングルフィンガーコード〉	14
〈シングルフィンガーコード早見表〉	16
オートベースコード2〈フィンガードコード〉	17
〈フィンガードコード早見表〉	18
ミュージックプログラマー	20
付属端子を使って楽しさを広げましょう	21
MIDI	22
故障と誤りやすい現象	24
LET'S PLAY	
アンド・アイ・ラブ・ハー	26
恋の予感	27
仕様	28
MIDIインプリメンテーションチャート	29

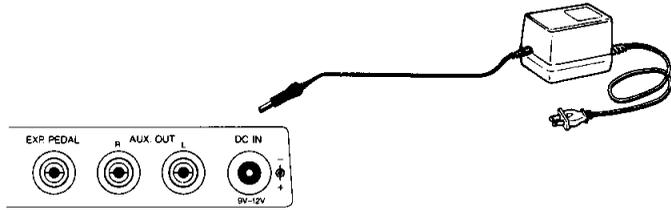
演奏をはじめる前に

ながくお楽しみいただくために、次の点にご注意ください。

電源について

PCR-800の電源は、家庭用コンセントと電池の両方を使用することができます。

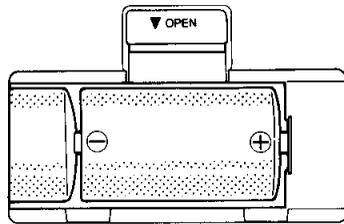
●電源アダプター[PA-4]の接続方法



電源アダプター[PA-4]は、AC100V(家庭用コンセント)から、DC12Vを取り出す電圧変換器です。PCR-800の本体裏面にある、DC IN(9-12V)端子へ接続して電源を供給してください。

●電池の入れ方

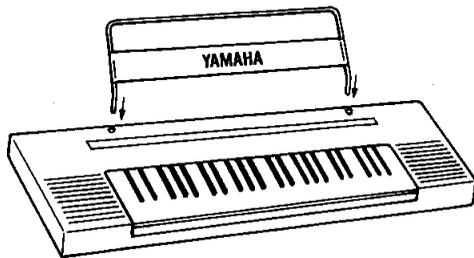
本体裏面にあるケースのふたを取り、単1の乾電池を一列に6個入れてください。このとき⊕⊖の方向をおまちがえないように。



電源スイッチを入れたとき、スイッチの上のパイロットランプが点滅していたら、電池がなくなり始めています。すべて新しい電池とお取りかえください。

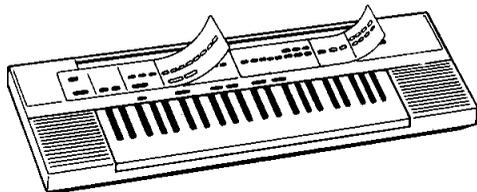
譜面立ての立て方

付属の譜面立ては、その両端を楽器の上にある2つの穴に差しこんでご使用ください。



和文シートについて

PCR-800には、本体の各部の名称が和文で書かれたシートがついています。シートには両面テープが貼付してありますので、本体にはってお使いになることもできます。なお本書では、この和文の名称でご説明しています。



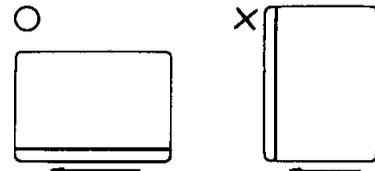
取扱い上の注意

- 直射日光が当たったり、暖房器具のそばなど極端に暑い場所に置くことはさけてください。本体の外側や内部に悪影響を与え、故障の原因となることがあります。
 - 特に湿気が多い場所に置くことはさけてください。
 - 過度な衝撃や無理な力を加えると、傷がついたり、故障の原因となることがあります。本体を落としたり、上に座ったりしないように注意してください。
 - 本体のお手入れは、乾いた布でカラぶきをするか、よごれのひどい時は少し水で湿らせた布でふいてください。アルコールやシンナー類は、絶対に使用しないでください。
- また、塩ビ系のものを長時間置くと、くっつく場合があります。
- ご使用後は、必ず電源スイッチを切ってください。

プレイカードの取扱いについて

PCR-800のプレイカードはいわばレコードと同じ。大切に扱きましょう。

- 磁気テープの部分を折ったり、キズつけたりしないでください。
- 本体にセットするときは、必ず指定された方向に入れてください。まちがって入れると、磁気テープにキズがつくおそれがあります。



- 強い磁場に近づけないようにしてください。
- スピーカー、アンプ、テレビのそばなど、強く磁気が作用しているところに近づけると、磁気テープに記憶されている大切なデータが消えてしまうことがあります。また、磁気ネックレス・リングなどの接触もさけてください。
- 磁気テープには、直接指でふれないようにしましょう。
 - 水やアルコール類がかからないようにご注意ください。
- もしかかった場合は、速かにふきとり乾燥させてからご使用ください。
- 汚れが目立つ場合は、清潔でやわらかな布で軽くふきとりましょう。
 - シンナーやベンジンなどを含む溶剤を、テープ面には絶対につけないでください。
 - 高温・多湿のところに保管するのはさけてください。
 - 長時間、直射日光の当たるところには置かないでください。
 - ビニール袋(シートカバー)に入れて保管しましょう。
- ホコリなどから守るため、プレイカードを使わないときは、必ずシートカバーに入れるようにしてください。



各部の名称とそのはたらき

☆わしくは()内のページを参照してください。
また、付属端子については21ページを参照してください。

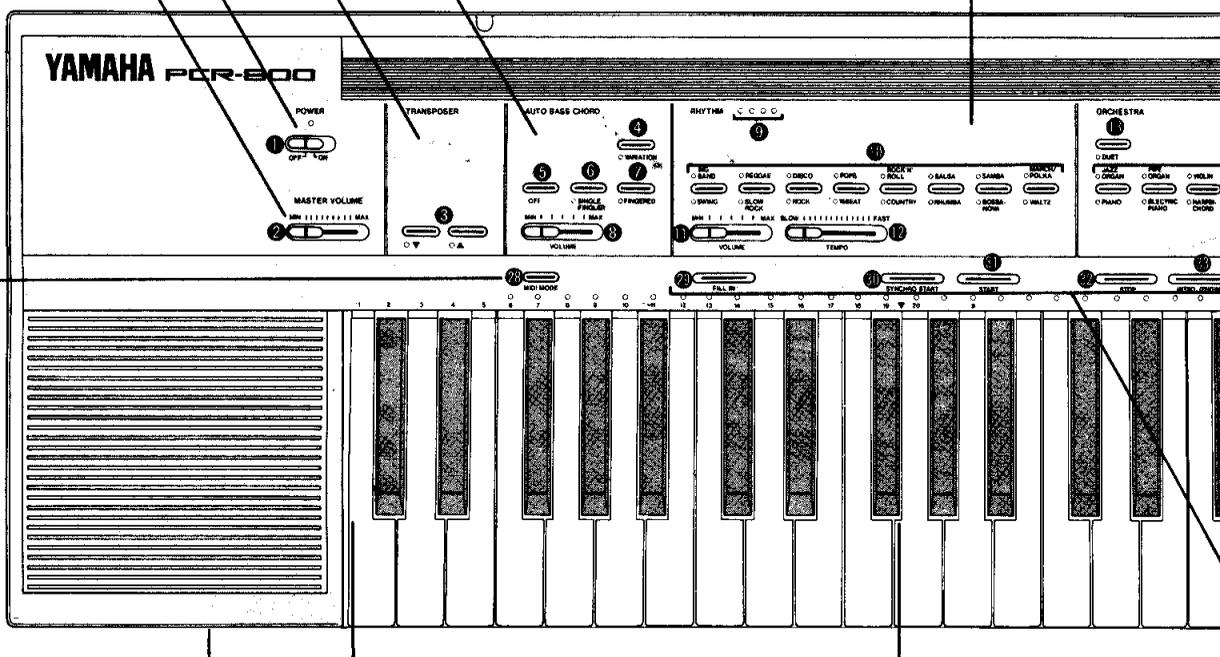
オートベースコード《自動伴奏》(14~19ページ)

- ④ **バリエーション**
[オートベースコードの音色やパターンを変化させるボタンです。]
- ⑤ **切**
[オートベースコードを使用しない時に押すボタンです。]
- ⑥ **シングルフィンガー**
[指1本で自動伴奏をする時に押すボタンです。]
- ⑦ **フィンガード**
[和音を押えて自動伴奏をする時に押すボタンです。]
- ⑧ **オートベースコード用音量レバー**
[オートベースコードの音量を調節するレバーです。]

- ③ **トランスポーザー**
[キーを変える時に押すボタンです。]
- ① **電源スイッチ/パイロットランプ**
[スイッチをONするとパイロットランプが点灯し、数秒後に演奏可能となります。]
- ② **総合音量レバー**
[全体の音量を調節するレバーです。]

リズム(13ページ)

- ⑨ **テンポランプ**
[リズムのテンポに合わせて点灯するランプです。]
- ⑩ **リズムセレクター**
[リズムの種類を選ぶボタンです。2度押しすると、上下反対がわのリズムになります。]
- ⑪ **リズム音量レバー**
[リズムの音量を調節するレバーです。]
- ⑫ **テンポコントロール**
[リズムのテンポを調節するレバーです。]



オートベースコード用鍵盤

[オートベースコードを使用して自動伴奏する時、伴奏を受けもつ鍵盤です。]

MIDI(22~23ページ)

⑬ MIDIモード

MIDI端子を使用する時、このボタンを押しながらパネルを操作してMIDIモードの切り換えをします。

ヘッドホン端子 (21ページ)

オーケストラ (12ページ)

⑬デュエット

[オートベースコードを使用している時ボタンを押すと、コード音から1音がメロディーに加わり、厚みのあるサウンドが得られます。]

⑭サスティン1・2

[オーケストラ音色に自然な余韻をつけるボタンです。1と2の2種類が選べます。もう1度押すとキャンセルされます。]

⑮ステレオシンフォニック

[ボタンを押すと音がまわり、広がりのある効果が得られます。もう1度押すとキャンセルされます。]

⑯オーケストラ音色セレクター

[オーケストラ音色を選ぶボタンです。2度押すと上下反対がわの音色になります。]

ミュージックプログラマー (20ページ)

⑰録音

[演奏を記憶させる時に押します。]

⑱再生

[記憶させた演奏を再生する時に押します。]

⑲ストップ

[演奏の記憶・再生を止める時に押します。]

プレイカードシステム (4~11ページ)

⑳プレイカード演奏

[プレイカードの模範演奏を再生します。]

㉑フリーテンポ

[プレイカードの模範演奏からメロディーが消え、かわりにランプがメロディーの位置を示します。ランプの点灯した鍵盤を押すと曲が先にすすみます。]

㉒メロディ練習

[④フリーテンポと同じようにメロディーが消えてランプが鍵盤の位置を示しますが、曲は一定のテンポで先にすすみます。]

㉓ランプ切

[鍵盤の上のガイドランプを消したい時に、このボタンを押します。]

㉔ストップ

[プレイカード演奏を停止します。]

㉕コード練習

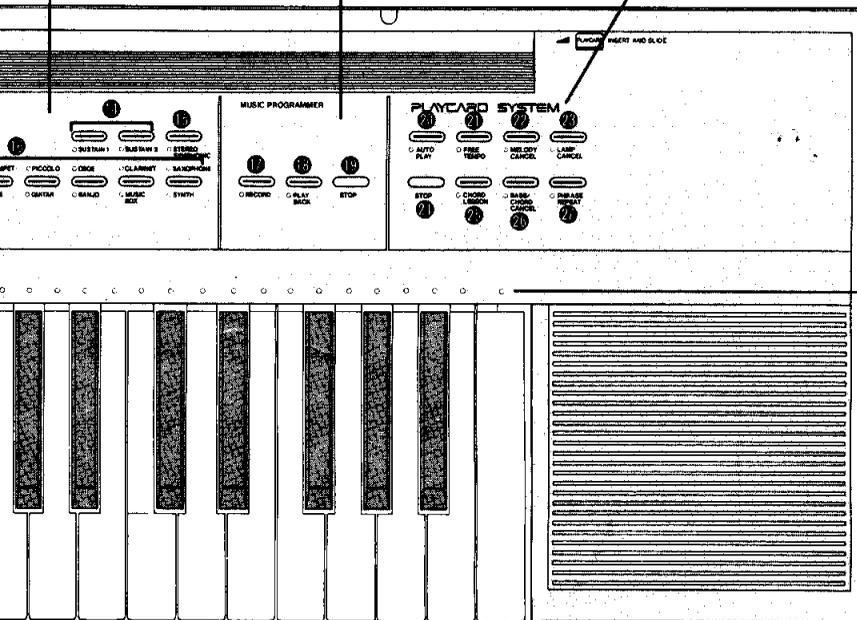
[カードの模範演奏から伴奏が消え、かわりにランプが押える和音の鍵盤の位置を示します。④フリーテンポと同じように、ランプの点灯した鍵盤を押すと曲が先にすすみます。]

㉖マニュアル伴奏

[④コード練習と同じように伴奏が消えてランプが押える和音の鍵盤の位置を示しますが、曲は一定のテンポで先にすすみます。]

㉗繰り返し演奏

[曲の一部や曲全体を繰り返し演奏させる時に押します。]



ガイドランプ

[プレイカードシステムを使用している時、鍵盤を指示するランプです。]

㉘フィルイン

[一時的にリズムを変化させるフィルインを使用する時に押します。]

㉙シンクロスタート

[オートベースコード用鍵盤を押えると同時にリズムをスタートさせるボタンです。]

㉚スタート

[リズムをスタートさせるボタンです。]

㉛ストップ

[リズムを止めるボタンです。]

㉜イントロ/エンディング

[イントロカウントでリズムをスタートさせる時や演奏の終わりにカッコよくキメたい時に押すボタンです。]

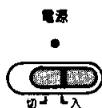
リズム (13ページ)

I. プレイカードS.S.ブックでレッスン

付属のプレイカードS.S.ブックは、音楽の基本的な知識を身につけながら、プレイカードシステムを使って楽しくキーボード演奏を独習できるように編集されています。ステップ1から順序よく、確実にマスターしながらレッスンをすすめましょう。

プレイカードのセット

1. 電源スイッチを入れます。



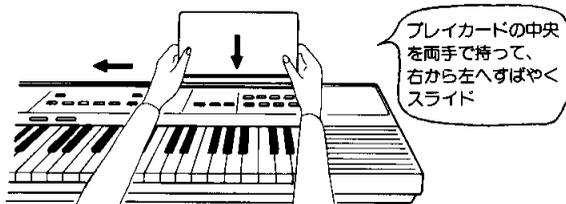
電気が通じるとパイロットランプが点灯します。

2. 総合音量を調節。



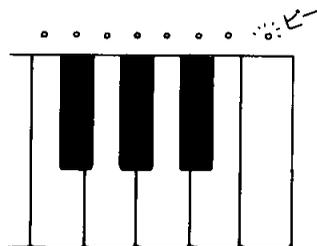
総合音量のレバーは、全体の音量を調節します。

3. プレイカードを カードリーダーに通します。



プレイカードをシートカバーから取り出し、磁気テープの部分をカードリーダーのみぞに対して水平に入れて右から左へすばやくスライドします。

4. 信号音を確認。



カードリーダーがデータを読みとると、鍵盤の上のガイドランプが左から順に点滅し、「ピー」という信号音が鳴ります。

☆両面に磁気テープがあるカードは、両面ともスライドさせます。片面のスライドが終わると信号音が4回鳴りますから、もう一方の面をスライドさせてください。

5. カード演奏がスタート。

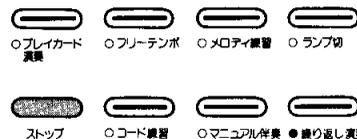
プレイカードシステム



プレイカード演奏と繰り返し演奏が自動的にセットされ、カードの演奏がはじまります。

6. 演奏を止める時はストップをON。

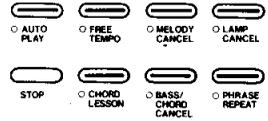
プレイカードシステム



☆リズムのストップでも演奏を止めることができます。

☆一度本体に読みとらせたデータは、電源を切るか、新しいカードをセットしない限り記憶されています。

PLAYCARD SYSTEM

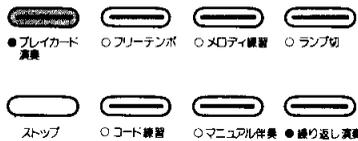


まずは、カードの演奏を聴いてみましょう — プレイカード演奏 (AUTO PLAY)

STEP1のカードをセットしたら、レッスンははじめましょう。

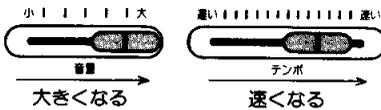
1. プレイカード演奏のボタンを押して、カードの模範演奏を聴きます。

プレイカードシステム



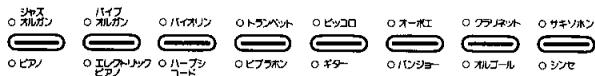
プレイカードの楽譜を見ながら、曲を聴きましょう。手や足でリズムをとったり、ハミングしながら聴くと曲の感じが早くつかめます。

2. リズムの音量とテンポを調節。



再生されるカード演奏のリズムの音量とテンポは、あらかじめプレイカードに記憶されたものですが、演奏をスタートさせた後、テンポコントロールとリズム用音量レバーで好みに調節することができます。

3. 音色を変えてみましょう。



再生されるカード演奏の音色は、あらかじめプレイカードに記憶されたものですが、演奏をスタートさせた後、オーケストラ音色セレクターで好みに変えることができます。

4. リズムも変えてみましょう。

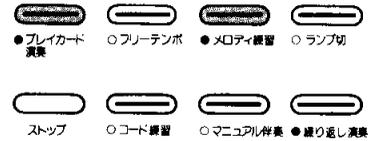


リズムパターンも自由に変えることができます。演奏をスタートさせた後、リズムセレクターで好きなリズムを選びます。

☆4拍子の曲にワルツをセットしても、メロディーは4拍子のまま進みます。

■カードをバックに歌おう

プレイカードシステム



S.S.ブックには歌詞のついているカードも入っています。

カード演奏に合わせて歌ってみましょう。

プレイカード演奏とメロディ練習を同時にONすると、通常のカード演奏よりメロディーの音量が小さくなり、カラオケに最適です。

●トランスポージャーを使えば、カード演奏を自分のキー(声の高さ)に合わせることができます。

キーを上げる時は▲、下げる時は▼のボタンをON。



ノーマルな状態よりキーが高いと▲の、低いと▼のランプが点灯します。

1回ONするごとに半音ずつキーが変わります。ノーマルな状態から▼は5回、▲は6回までONしてキーを変えることができます。ノーマル状態に戻すには▲と▼のボタンを同時にONします。

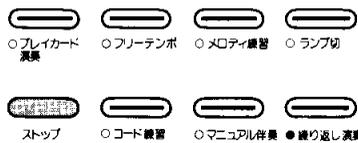
右手のレッスン

■自分のテンポでレッスン—フリーテンポ
ランプの指示に従って弾けば、弾く人のテンポに合わせて伴奏
がついてきます。

1. まずはカードをセット(4ページ参照)。

2. ストップを押します。

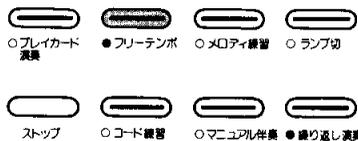
フレイカードシステム



最後まで曲を聴かない時は、ストップを押して曲を止めます。

3. フリーテンポを押します。

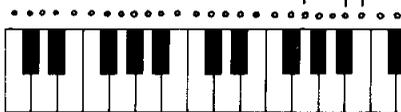
フレイカードシステム



自動的にカード演奏が始まりますが、前奏が終わると曲が止まり、
▼ジルスより右がわの鍵盤のランプがひとつだけ点灯します。

4. ランプを追いかけてみましょう。

この▼ジルスより左側で点灯しているランプは左手パート用です。
黄色いランプは黒鍵
赤いランプは白鍵



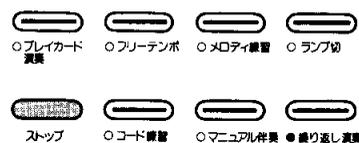
ランプが点灯している鍵盤を弾いてみてください。曲がすすんで別のランプがつくでしょう? こんなふうに次々とランプが弾く鍵盤を知らせてくれて、あなたのメロディー演奏に伴奏がついていきます。

■その曲本来のテンポでレッスン—メロディ練習
今度は、ランプも伴奏も待ってくれません。テンポをはじめは
ゆっくりにしましょう。

1. まずはカードをセット(4ページ参照)。

2. ストップを押します。

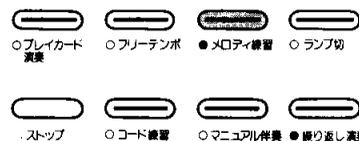
フレイカードシステム



最後まで曲を聴かない時は、ストップを押して曲を止めます。

3. メロディ練習を押します。

フレイカードシステム



自動的にカード演奏が始まりますが、メロディーは演奏されません。

4. 伴奏とランプに合わせてメロディーを演奏しましょう。

一定のテンポで、ランプがメロディーの位置を示します。はじめのうちは、テンポコントロールでテンポを遅めにセットして、じっくり練習しましょう。

☆前奏のときに、弾きやすいテンポに調節します。

☆だんだんテンポを速くして、その曲本来のテンポで弾けるようになるまで、何度もくり返しレッスンしましょう。

■ランプから卒業しましょうーランプ切

なれてきたら、なるべくランプにたよらずに、楽譜を見て演奏を。ランプを消してしまいましょう。

1. まずはカードをセット(4ページ参照)。

2. ストップを押します。

3. メロディ練習を押して
すぐにランプ切のボタンを押します。

プレイカードシステム



こっちのボタンを
先に押します

鍵盤を示していたランプが消えます。

☆プレイカード演奏、フリーテンポ、コード練習、マニュアル伴奏のときでも、ランプ切を使うことができます。そのいずれかを押してから、ランプ切のボタンを押してください。

☆ランプ切のボタンは、カード演奏がスタートしていないとオン/オフの切り換えができません。

4. 楽譜を見ながら演奏しましょう。

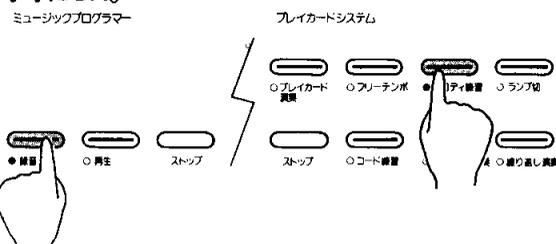
■自分の演奏を聴いてみましょう

自分の演奏を録音し、リズムにのってうまく弾けたか、確認してみましょう。

1. まずはカードをセット(4ページ参照)。

2. ストップを押します。

3. メロディ練習とミュージックプログラマーの録音ボタンを
同時にON。

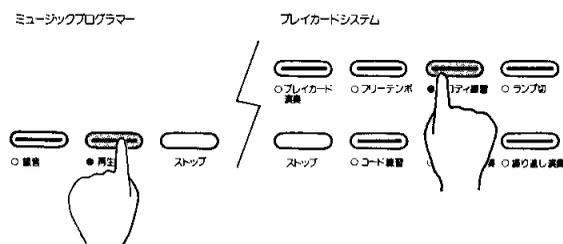


1小節間「チッ・チッ・チッ・チッ」とカウントが入り、カード演奏がスタート。リズムにのって演奏しましょう。

☆マニュアル伴奏での左手のレッスンや、メロディ練習とマニュアル伴奏の両方を押して両手のレッスンをする時も録音することができます。

☆演奏が終わると自動的にストップします。

4. メロディ練習とミュージックプログラマーの再生ボタンを
同時にON。



聴いてみましょう。

左手のレッスン

■コード練習

左手のコード伴奏を練習します。鍵盤で正しい和音を押えるまで、カードのメロディー演奏が待っていてくれます。

1. まずはカードをセット(4ページ参照)。

2. ストップを押します。

フレイクードシステム



最後まで曲を聴かない時は、ストップを押して曲を止めます。

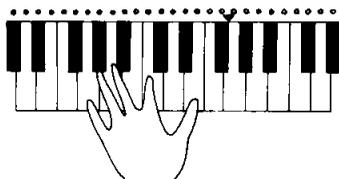
3. コード練習を押します。

フレイクードシステム



自動的にカード演奏が始まりますが、コード伴奏がはじまると曲が止まり、オートベースコード用鍵盤で押えるコード(和音)のランプが点灯します。

4. ランプを追いかけてみましょう。



ランプが点灯している鍵盤を押えてみてください。曲がコードの変わるところまで進んで、また次のランプが点灯します。こんなふうにランプが弾く和音を知らせてくれて、あなたのコード伴奏にカードの演奏がついていきます。

☆ランプの指示とは違って、正しいコードであれば曲は先に進みます。

Ex. Cコードの場合

(コードにはいくつかの押え方があります。)



ランプの指示はコレ。ほかに下のような押え方があります。



☆セブンスコード、マイナーセブンスコードの場合、5度をぬいたカタチにしても曲は先にすすみます。

☆次のコードに変わるまでの間にまちがえて鍵盤を弾くと、そこでコード演奏がストップし、もう1度正しいコードを押えるまで待っています。

■マニュアル伴奏

カード演奏から伴奏が消え、ランプが点灯しますが、今度は一定のテンポで曲がすすみます。

1. まずはカードをセット(4ページ参照)。

2. ストップを押します。

プレイカードシステム



最後まで曲を聴かない時は、ストップを押して曲を止めます。

3. マニュアル伴奏を押します。

プレイカードシステム



自動的にカード演奏が始まりますが、伴奏は再生されません。

4. カード演奏とランプに合わせて、コード伴奏をしましょう。

一定のテンポでランプがコードの位置を示します。はじめのうちはテンポコントロールでテンポをゆっくりにしてレッスンしましょう。

■シングルフィンガーコードの練習

和音を押えるのはムズカシイという方は、1本指でコード伴奏ができるシングルフィンガーコードの練習からはじめましょう。(シングルフィンガーコードについては14~16ページ参照)

1. カードをセット。

2. ストップを押します。

プレイカードシステム



3. コード練習か、マニュアル伴奏のいずれかをON。



4. オートベースコードのシングルフィンガーをON。



オートベースコード用鍵盤のランプが点灯します。

5. ランプを追いかけましょう。

苦手なフレーズは繰り返し

なかなかうまくいかないところだけを集中してフレーズ練習をすることができます。

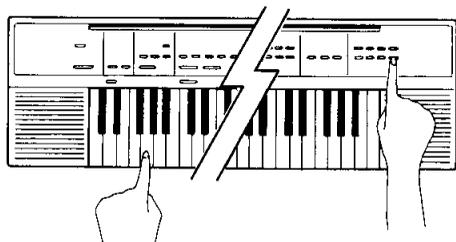
1. カード演奏をストップ。

再生しながらフレーズ練習の指定はできません。ストップボタンでいったん曲を停止します。

2. 繰り返しレッスンしたいフレーズを、楽譜を見て選びます。

プレイカードの楽譜に、①②③……とフレーズナンバーが入っています。

3. 繰り返し演奏のボタンを押しながら 鍵盤でフレーズを指定します。



鍵盤(左から20鍵と*印のあるA2の鍵盤)の上にながされているのがフレーズナンバーです。繰り返し演奏を押したまま、指定するフレーズナンバーの鍵盤を押します。たとえば、③のフレーズをリピートしたいときには3の鍵盤を押します。また、③から⑧までをリピートしたいときには、繰り返し演奏を押したまま、3と8の鍵盤を押します。

4. 曲をスタート。

プレイカード演奏、フリーテンポ、メロディ練習、コード練習、マニュアル伴奏のいずれかをON。指定したフレーズがくり返し再生されます。(繰り返し演奏のボタンをもう一度押すと、リピートはキャンセルされます。)

☆一曲ぜんぶをくり返したいときは、繰り返し演奏のボタンを押したまま、*マークのあるA2の鍵盤を押します。(フルリピート)

☆カードをセットした時は、自動的にフルリピートの状態になっています。

両手の演奏に挑戦

曲本来のテンポで、メロディーもコードも弾けるようになったら、両手で演奏してみましょう。はじめのうちはテンポをゆっくりにしたり、コード伴奏をシングルフィンガーにしてもOK。両手で弾ければ、もう1人前のキーボードプレイヤー！

1. まずはカードをセット(4ページ参照)。

2. ストップを押します。

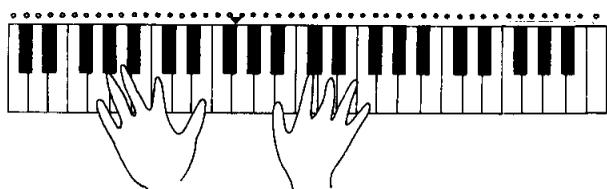
3. メロディ練習とマニュアル伴奏のボタンを同時にON。

プレイカードシステム



自動的にカード演奏がはじまりますが、メロディーも伴奏も再生されません。

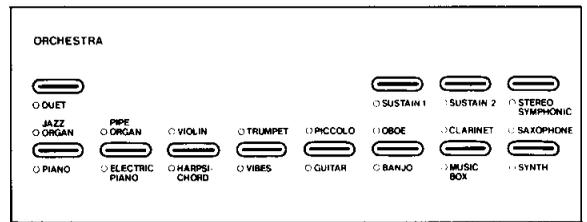
4. 両手で演奏しましょう。



☆うまく弾けるようになったら、ランプを消して練習しましょう。

II. カードにたよらず演奏を

ポーターンの高級モデルとして、充実した音楽表現機能をもつPCR-800。
ここでは、プレイカードシステムから離れて、基本的な使い方をご紹介します。



オーケストラ

好きな楽器の音色を選び、メロディーを弾いてみましょう。

1. オーケストラ音色セクターから

好きな音色をひとつON。

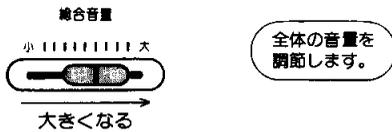


いずれかひとつON

選ばれた音色のランプが点灯します。もう1度、同じボタンを押すと上下反対がわの音色になります。

☆いずれかの音色セクターをONすると、前に選んだ音色は自動的にキャンセルされます。

2. マスターボリュームを調節。



3. 鍵盤をおさえてみましょう。

選んだ音色が出たことと思います。ほかの音色に変えていろいろなメロディーを弾いてみましょう。

☆同時に7音まで(オートベースコード、デュエットを使用していない時)の和音演奏ができます。

効果

●ステレオシンフォニック



ボタンを押すと、音色がステレオとなって左右のスピーカーから流れ、広がりのある効果が得られます。もう1度押せばキャンセルされます。

●サステイン



サステインは音に自然な余韻をつける効果です。サステイン1と2は余韻のかかゝ方が異なります。曲によって使いわけてください。もう1度押せばキャンセルされます。

☆オーケストラ音色には大きく分けて2種類あります。

持続音	ジャズオルガン、パイプオルガン、バイオリン、トランペット、ピッコロ、オーボエ、クラリネット、サクソホン
減す音	ピアノ、エレクトリックピアノ、ハーブシコード、ビブラホン、ギター、バンジョー、オルゴール、シンセ

●デュエット



オートベースコード(14~17ページ)を使用している時、メロディーに1音、自動的にハーモニーをつけるボタンです。もう1度押せばキャンセルされます。

☆ハーモニーとして加わる音の音色は、オーケストラ音色セクターで選んでいるものです。

☆デュエットを使用している時は、同時に2音までしか鳴らせません。

☆オートベースコードのシングルフィンガー、もしくはフィンガードのボタンがONされていないと、デュエットをONすることはできません。

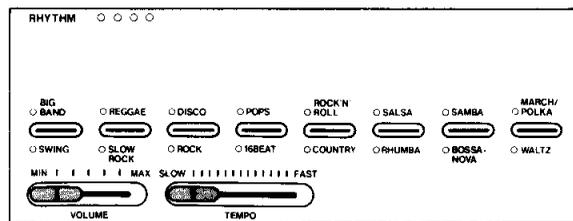
弾いてみましょう

★ピアノの音色で、サステイン2をON。

ハッピー バースデー トゥ ユー

作詞 P.S.HILL
作曲 M.J.HILL

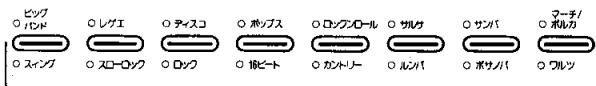




リズム

ドラムスを加えて、リズムミッドな演奏を。

1. リズムセクターからリズムをひとつ選んでON。



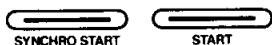
ひとつ選んでON

選ばれたリズムのランプが点灯します。もう1度押すと上下反対がわのリズムになります。

☆いずれかのリズムセクターを押すと、前に選んだリズムは自動的にキャンセルされます。

☆ワルツは3拍子、そのほかのリズムは4拍子です。

2. スタート、シンクロスタートどちらかをON。



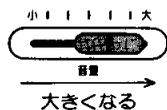
<スタート>

ボタンをおすと同時に、選んだリズムが第1拍目から鳴りはじめます。

<シンクロスタート>

このボタンをおすと演奏スタンバイの状態となり、オートベースコード用鍵盤(C1~F#2)をおすと同時に選んだリズムが第1拍目から鳴りはじめます。4分音符の単位で点滅している赤いランプでテンポを確認して、メロディーとリズムを同時にスタートさせることができます。もう1度押すとリズムが止まり、再び演奏スタンバイ状態にもどります。ブレイクなどの時に便利です。

3. リズム・ボリュームでリズム音の大きさを調節。



大きくなる

4. テンポレバーでリズムの速さを調節。



速くなる

5. リズムを止める時はストップをON。



リズムをより効果的に

●イントロ/エンディング



よりカッコよくリズムをスタート、ストップさせる時にこのボタンを使います。イントロとして使用の時、カウントをとってからリズムがスタート。テンポを確認して演奏をはじめられます。また、曲のおわりに使用すると、カッコよくエンディングをキメることができます。

☆イントロスタートの場合、カウントの間は鍵盤をおさえていてもオートベースコードの音は鳴りません。鍵盤をおさえて待っているとタイミングよくスタートできます。

●フィルイン



メロディーの切れ目など必要な時にフィルインを押すと、その小節の終わりまで変則的なリズム(オカズ)に変わります。

<フィルインで曲をスタート>

フィルインで曲をスタートさせることもできます。まず、フィルインをONしてからリズムをスタート。

リズム ○ ● ○ ○

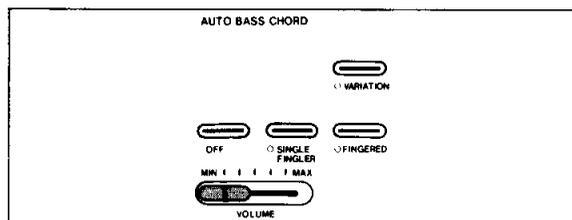
リズムがスタートしていない時、フィルインが押されるとそのシルシに2番目のテンポランプが点灯します。

☆フィルインを押し続けると変則的なリズムが長く続きます。

☆フィルインのパターンは選んだリズムによって変化します。

☆フィルインを押したあと、その小節内にもう1度押すと通常のリズムにもどります。





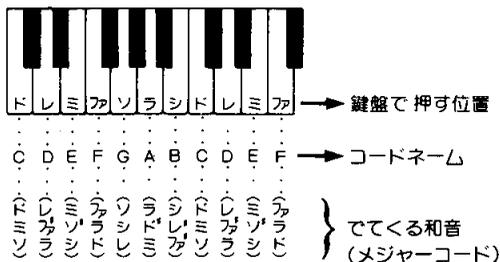
オートベースコード1 シングルフィンガーコード

指1本で鍵盤をおさえるだけで、コード(和音)とベース音による自動伴奏ができます。

シングルフィンガーコードのだし方

シングルフィンガーコードについて

次の図は、オートベースコード用鍵盤をおす位置と、でてくる和音の関係を示したものです。



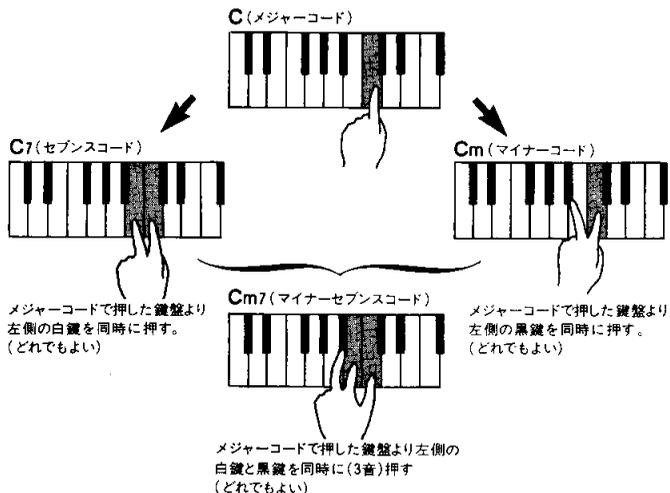
#, bのついているコードのだし方



#がついていたら、上の図で説明した位置の右上の黒鍵、bがついていたら左上の黒鍵をおせば、#・bのついたコードがでます。

セブンスコード、マイナーコードのだし方

アルファベット1文字のコード(C, Dなど)をメジャーコードといいますが、伴奏はメジャーコードだけとは限りません。例えば[G7]のようなセブンスコード、[Am]のようなマイナーコードもよく使われます。これらも、下図のように、2つの鍵盤を同時に押すことができます。



1. リズムをセット。

リズム ○ ○ ○ ○

ひとつ選んでON

ビッグ ○ ロック ○ ティアスコ ○ ホルンズ ○ ロックンロール ○ サルガ ○ サオ1 ○ マーチ/ポルカ
 ○ スイング ○ スローロック ○ ロック ○ ヒート ○ カントリー ○ ルンバ ○ ボサノバ ○ ワルツ

テンポとボリュームをセット

シンクロスタート ON

2. シングルフィンガーコードのボタンをON。

OFF ● シングルフィンガー ○ フィンガード

3. オートベースコードの音量レバーを調節。

小 | | | | 大

音量

☆総合音量が最小(MIN)の位置にあると、ごく小さな音しかでません。

4. オートベースコード用鍵盤をひとつおさえます。

和音とベース音がリズムによってできます。

オートベースコード用鍵盤をおすと同時に和音とベース音による伴奏がリズムによってでてきます。

☆鍵盤から指を離れたあとも同じ伴奏がくり返されます。コードが変わるときだけ鍵盤をおしてください。

☆コードを変えるところで、指を鍵盤から離さないで動かすと、コードが変わらないことがあります。いったん鍵盤から指を離すようにしてください。

☆オートベースコードの音色は、オーケストラで選んだ音色と関係ありません。

伴奏に変化を

●バリエーション



このボタンを押すと、コード伴奏とベース伴奏のパターン、および音色が変化します。もう1度押せばキャンセルされます。

ラブ・ミー・テンダーを弾いてみましょう

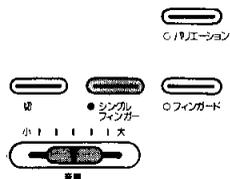
1. オーケストラ音色セクターのエレクトリックピアノをON。

2. リズムはポップスを選びます。



リズムのテンポと
ボリュームを調節。

3. オートベースコードをセット。



4. シンクロナイズドまたはイントロ/エンディングをON。

5. なれたら途中からデュエットを加えると効果的。

ラブ・ミー・テンダー

Love me Tender

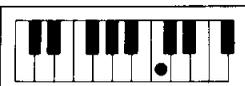
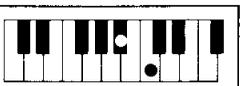
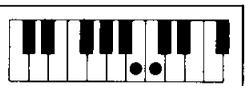
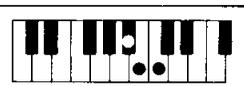
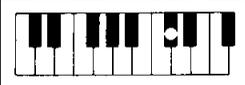
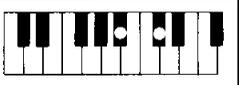
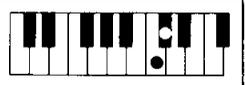
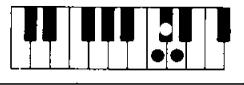
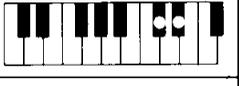
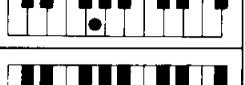
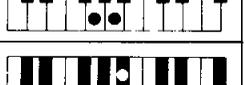
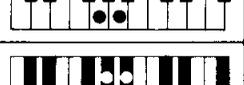
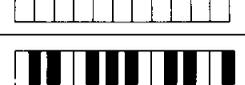
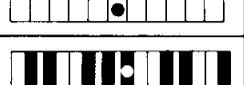
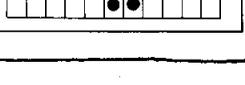
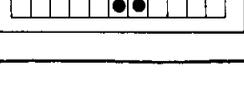
作詞・作曲/E.Presley & V.Matson

日本音楽著作権協会(出)許諾第8570796-501号
©1956 by ELVIS PRESLEY Music, Inc.
Rights for Japan assigned to CHAPPEL/INTERSONG K.K.

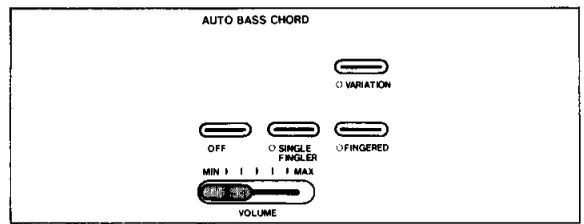
☆コードのおさえ方

コード早見表

シングルフィンガーコード

メジャーコード		マイナーコード		セブンスコード		マイナーセブンスコード	
C		Cm		C7		Cm7	
D [♯] (D [♯])		D [♯] m (C [♯] m)		D [♯] 7 (C [♯] 7)		D [♯] m7 (C [♯] m7)	
D		Dm		D7		Dm7	
E [♯] (D [♯])		E [♯] m (D [♯] m)		E [♯] 7 (D [♯] 7)		E [♯] m7 (D [♯] m7)	
E		Em		E7		Em7	
F		Fm		F7		Fm7	
F [♯] (G [♯])		F [♯] m (G [♯] m)		F [♯] 7 (G [♯] 7)		F [♯] m7 (G [♯] m7)	
G		Gm		G7		Gm7	
A [♯] (G [♯])		A [♯] m (G [♯] m)		A [♯] 7 (G [♯] 7)		A [♯] m7 (G [♯] m7)	
A		Am		A7		Am7	
B [♯] (A [♯])		B [♯] m (A [♯] m)		B [♯] 7 (A [♯] 7)		B [♯] m7 (A [♯] m7)	
B		Bm		B7		Bm7	





オートベースコード2フィンガードコード

実際に、コード(和音)をおさえて自動伴奏をしてみましょう。シングルフィンガーコードより表現の幅が広がります。

1. リズムをセット。

リズム ○ ○ ○ ○

ひとつ選んでON

ビッグ ○ バンド	○ レガエ	○ テキサコ	○ ポプス	○ ロックンロール	○ サルサ	○ サンバ	マーチ/ ○ 探検
○ スイング	○ スロロック	○ ロック	○ 6ビート	○ カントリー	○ ルンバ	○ ボサノバ	○ ワルツ

テンポとボリュームをセット

シンクロスタート ON

2. フィンガードコードのボタンをON。

切 ○ シングルフィンガー ● フィンガード

3. オートベースコードの音量レバーを調節。

小 | | | | 大

MIN MAX

☆ 総合音量が最小 (MIN) の位置にあると、ごく小さな音しかできません。

4. オートベースコード用鍵盤で和音をおさえます。

例えば C なら

オートベースコード用鍵盤をおすと同時に和音とベース音による伴奏がリズムにのってできてきます。

☆ 鍵盤から指を離れたあとも同じ伴奏がくり返されます。コードが変わるときだけ鍵盤をおしてください。

☆ コードを変えるところで、指を鍵盤から離さないで動かすと、コードが変わらないことがあります。いったん鍵盤から指を離すようにしてください。

☆ オートベースコードの音色は、オーケストラで選んだ音色と関係ありません。

☆ 転回形を検出できるコードは、次の7種類です。

例：C、C_m、C7、C_m7、C_m7⁻⁵、C7sus4

これ以外のコードの場合は、押鍵している和音の最低音をベースとして演奏します。

伴奏に変化を

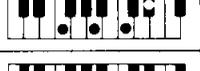
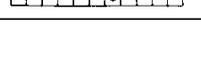
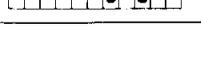
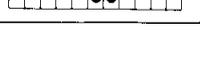
● バリエーション



このボタンを押すと、コード伴奏とベース伴奏のパターン、および音色が変化します。もう1度押せばキャンセルされます。

コード早見表

フィンガーコード

メジャーコード		マイナーコード		セブンスコード	
C		Cm		C7	
D [♯] (C [♯])		D [♯] m (C [♯] m)		D [♯] 7 (C [♯] 7)	
D		Dm		D7	
E [♯] (D [♯])		E [♯] m (D [♯] m)		E [♯] 7 (D [♯] 7)	
E		Em		E7	
F		Fm		F7	
F [♯] (G [♯])		F [♯] m (G [♯] m)		F [♯] 7 (G [♯] 7)	
G		Gm		G7	
A [♯] (G [♯])		A [♯] m (G [♯] m)		A [♯] 7 (G [♯] 7)	
A		Am		* A7	
B [♯] (A [♯])		B [♯] m (A [♯] m)		* B [♯] 7 (A [♯] 7)	
B		Bm		* B7	

マイナーセブンスコード

Cm7	
D ^b m7 (C ^b m7)	
Dm7	
E ^b m7 (D ^b m7)	
Em7	
Fm7	
F ^b m7 (G ^b m7)	
Gm7	
A ^b m7 (G ^b m7)	
* Am7	
* B ^b m7 (A ^b m7)	
* Bm7	

メジャーセブンスコード

Cmaj7	
D ^b maj7 (C ^b maj7)	
Dmaj7	
E ^b maj7 (D ^b maj7)	
E ^b maj7 (D ^b maj7)	
Fmaj7	
F ^b maj7 (G ^b maj7)	
Gmaj7	
* A ^b maj7 (G ^b maj7)	
* Amaj7	
* B ^b maj7 (A ^b maj7)	
* Bmaj7	

デミニッシュコード

Cdim	
D ^b dim (C ^b dim)	
Ddim	
E ^b dim (D ^b dim)	
E ^b dim (D ^b dim)	
Fdim	
F ^b dim (G ^b dim)	
Gdim	
A ^b dim (G ^b dim)	
Adim	
* B ^b dim (A ^b dim)	
* Bdim	

オーギュメントコード

Caug	
D ^b aug (C ^b aug)	
Daug	
E ^b aug (D ^b aug)	
Eaug	
Faug	
F ^b aug (G ^b aug)	
Gaug	
A ^b aug (G ^b aug)	
Aaug	
B ^b aug (A ^b aug)	
* Baug	

マイナーセブンス
フラットテッドフィフスコード

Cm7 ⁻⁵	
D ^b m7 ⁻⁵ (C ^b m7 ⁻⁵)	
Dm7 ⁻⁵	
E ^b m7 ⁻⁵ (D ^b m7 ⁻⁵)	
E ^b m7 ⁻⁵ (D ^b m7 ⁻⁵)	
Fm7 ⁻⁵	
F ^b m7 ⁻⁵ (G ^b m7 ⁻⁵)	
Gm7 ⁻⁵	
A ^b m7 ⁻⁵ (G ^b m7 ⁻⁵)	
* Am7 ⁻⁵	
* B ^b m7 ⁻⁵ (A ^b m7 ⁻⁵)	
* Bm7 ⁻⁵	

セブンスサス・フォー
コード

C7sus4	
C ^b 7sus4 (D ^b 7sus4)	
D7sus4	
E ^b 7sus4 (D ^b 7sus4)	
E ^b 7sus4 (D ^b 7sus4)	
F7sus4	
F ^b 7sus4 (G ^b 7sus4)	
G7sus4	
A ^b 7sus4 (G ^b 7sus4)	
* A7sus4	
* B ^b 7sus4 (A ^b 7sus4)	
* B7sus4	

※は転回型、他は基本型です。

ミュージックプログラマー

両手で演奏するのが難しい曲も片手ずつならラクラク・プレイ。

■コード/ベースを録音しましょう。

1. リズムをセット。

リズム ○ ○ ○ ○

ひとつ選んでON

ビップ ○パド	レグエ	チヤスコ	ボンス	ロンクロール	サルサ	サンバ	マーチ ○ポルカ
スイング	スロ・ロック	ロック	懐ビート	カンター	ルンバ	ボサノバ	ワルツ

音量を調節

テンポは弾きやすいテンポにしましょう
あとで調節できます

2. 録音ボタンをON。

●録音 ○再生 ○ストップ

シンクrostartと、オートベースコードのフィンガードが自動的にONされます。

3. オートベースコードをセット。

○バリエーション — バリエーションもメモリーします

切 ●シングルフィンガー ○フィンガード

音色のセッティングや音量もメモリーします。

4. 演奏して録音します。

5. 録音したい演奏が終わったら、ストップをON。

○録音 ○再生 ●ストップ

☆リズムのストップボタンでも止まります。

■再生にあわせてメロディーを演奏しましょう。

6. 再生のボタンを押します。

○録音 ●再生 ○ストップ

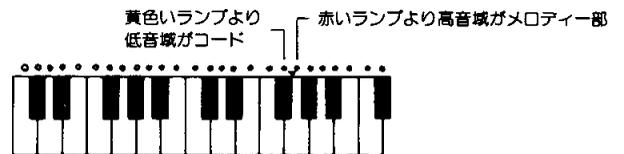
再生のボタンを押すと同時に録音させた演奏の再生がスタートします。

7. 再生されるコード/ベース伴奏に合わせてメロディーを演奏しましょう。

☆録音した演奏は、電源を切っても約5日間保持可能です。

☆同様の手順でメロディーを録音したり、両手の演奏を録音することもできます。ただし、メロディーのみを録音したい時でもオートベースコード用鍵盤部は使用できません。また、リズムなしで録音することもできません。

☆録音のボタンを押すと同時に鍵盤の上のランプが2つ点灯し、オートベースコード用鍵盤部とメロディー部を示します。



☆鍵盤の上に点灯したランプは、メモリーの残量を示しています。▼ジルスより左がわがコード用で、メモリーを使用すると順に左へ移動します。▼ジルスより右がわのメロディー用も同じように順に右へ移動します。このどちらかが端までくるとメモリーがフルの状態となり、録音のランプが自動的にキャンセルされます。

☆演奏の録音と同時に次のものをメモリーします。

- リズムセレクター・リズム用音量レバー バリエーション・オートベースコード用音量レバー・フィルイン・イントロ/エンディング
- オーケストラ音色セレクター・デュエット・サステイン・ステレオシンフォニック (テンポコントロール、総合音量、フットスイッチを使用したサステインはメモリーしません。)

付属端子を使って、楽しさを広げましょう



PCR-800の本体裏側には、図のような付属端子がついています。これらを活用すれば、楽しさはいっそう広がります(ヘッドホン端子は左前にあります)。

1. HEADPHONES端子

ステレオ、モノラルどちらのタイプのヘッドホンでもご使用になれます。夜間など周囲への迷惑を気にすることなく、演奏をお楽しみください。

2. MIDI端子

他のデジタル楽器やコンピューターと接続して、情報交換する時に使います。(くわしくは22~23ページをご参照ください。)

3. SUSTAIN端子

足でサステインのON/OFFをコントロールするフットスイッチ[FC-5]を接続する端子です。

4. MIC. IN端子

マイクはこの端子に接続。プレイカードなどで歌うときにお使いください。

5. マイクボリューム

マイクの音量は、左端のマイクボリュームのつまみで調節してください。(大きすぎるとハウリングを起こす場合があります。)



5. EXP. PEDAL端子

エクスプレッションペダルは、足で自由に音量を調節でき、演奏にゆたかな表情をあたえます。この端子に接続してお使いください。

6. AUX. OUT端子

ご家庭のオーディオなどとの接続にお使いください。

A. 出力をより大きくしたい時

この端子とオーディオやアンプなどのLINE INジャックを接続。オーディオのスピーカーを通して、迫力あるサウンドがお楽しみいただけます。

B. 演奏を録音したい時

この端子とテーブデッキのLINE INジャックを接続。録音レベルは、テーブデッキで調節できます。

7. DC(9V-12V) IN端子

家庭用コンセントから電源をとるときに、この端子を使います。専用のアダプター(PA-4)を接続してください。

☆PITCHコントロール

他の楽器とアンサンブルする時など、音程の微妙な調節ができます。(±50セント)

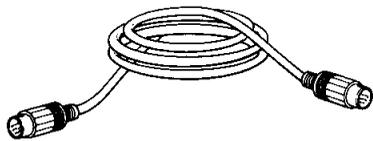


オプション(別売付属品)

- ステレオヘッドホン[YHD-3] ¥5,500



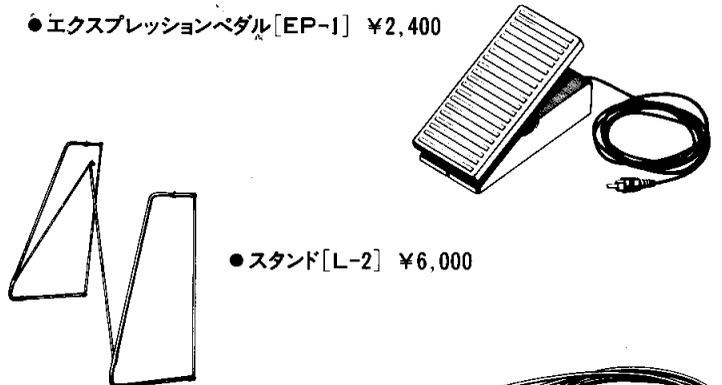
- MIDIケーブル[MIDI-15] 15m ¥3,800
- [MIDI-03] 3m ¥1,400



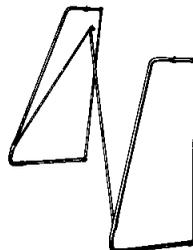
- フットスイッチ[FC-5] ¥1,500



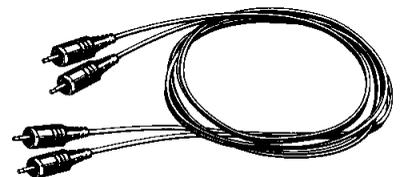
- エクスプレッションペダル[EP-1] ¥2,400



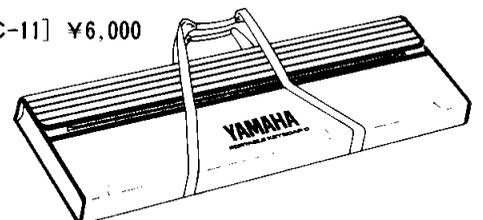
- スタンド[L-2] ¥6,000

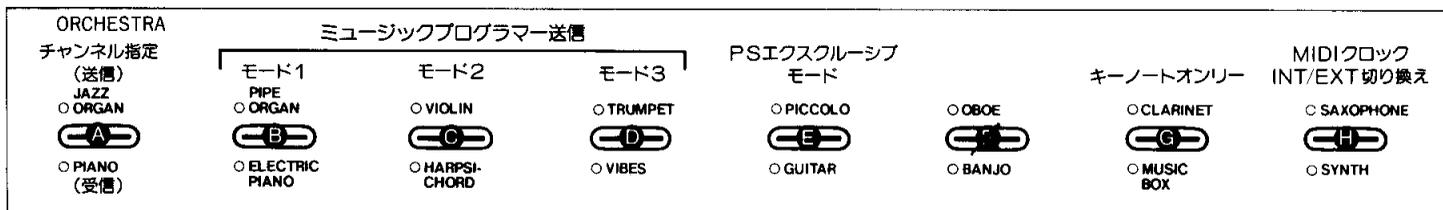


- 接続コード[PSC-3](ステレオ) ¥1,000



- 専用ソフトケース[SCC-11] ¥6,000





PCR-800のMIDIでできること

1. キーノートON/OFF(鍵盤押鍵情報)の送・受信
2. プログラムチェンジ(オーケストラ音色の選択)の送・受信
3. コントロールチェンジ(オーケストラのサステイン、ボリューム)の送・受信
4. MIDIクロック、スタート/ストップの送・受信
5. ミュージックプログラマーに記憶させた演奏データの送・受信
6. プレイカードの演奏データの送信
7. オーケストラ、ベース、コード、リズムの各パート別のプログラムチェンジ、コントロールチェンジの受信

PCR-800のMIDIでは、次のものは送信・受信しません。

1. ベロシティー、ベンダーなど、PCR-800にない機能の情報
2. PCR-800の音域(C1~C5)以外のキーノート

電源ON時の状態は次のとおりです。

- クロックはINT.(インターナル)クロック
 - オムニ・オン/ポリ
- パワースイッチを入れなおすと常にこの状態になります。

MIDIモード設定

MIDIモードのボタンを押している時は、オーケストラ音色セレクターとリズムセレクターが上の図のような機能に変わります。

☆リズムがスタートしているとMIDIモードの設定はできません。



①チャンネルモード

送信・受信とも1~16チャンネルに設定することができます。

操作

(送信チャンネル指定)

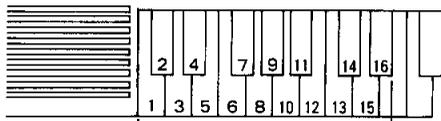
1. MIDIモードのボタンを押しながら①「チャンネル指定モード」スイッチをON。ジャズオルガンのランプを点灯させ、送信のモードにします。
2. MIDIモードのボタンを押したまま、鍵盤でチャンネルを指定します(下図参照)。

(受信チャンネル指定)

1. MIDIモードのボタンを押しながら②「チャンネル指定モード」スイッチをON。ピアノのランプを点灯させ、受信のモードにします。
2. MIDIモードのボタンを押したまま、鍵盤でチャンネルを指定します(下図参照)。

●さらに、MIDIモードのボタンを押したまま、①「チャンネル指定モード」スイッチをONすると、ランプが消えて再びオムニ・オンの状態に戻ります。オムニ・オンに戻しても、前に指定した送・受信チャンネルは電源を切らない限りおぼえています。

☆チャンネルの指定に使う鍵盤は左端16鍵です。



指定したいチャンネルナンバーの鍵盤を押します。

☆指定したチャンネルナンバーは、テンポランプで図のように2進表示されます。

チャンネルナンバー	テンポランプの点灯	チャンネルナンバー	テンポランプの点灯
1	● ○ ○ ○	9	● ○ ○ ●
2	○ ● ○ ○	10	○ ● ○ ●
3	● ○ ○ ○	11	● ○ ○ ●
4	○ ○ ● ○	12	○ ○ ● ●
5	● ○ ● ○	13	● ○ ● ●
6	○ ● ● ○	14	○ ● ● ●
7	● ● ● ○	15	● ● ● ●
8	○ ○ ○ ●	16	○ ○ ○ ○

- ③ミュージックプログラマー送信モード1 <プレイカード・データ送信>
- ④ミュージックプログラマー送信モード2

ミュージックプログラマーに記憶させた演奏データやプレイカードのデータを他のキーボードに送信し、その音源を使用して演奏させたい時に使います。③モード1か④モード2の選択はスレーブにする楽器によって選択します。スレーブにする楽器がシングルフィンガーコード形式の自動伴奏機能を持っている場合はモード1、フィンガードコード形式の自動伴奏の時はモード2にします。

操作

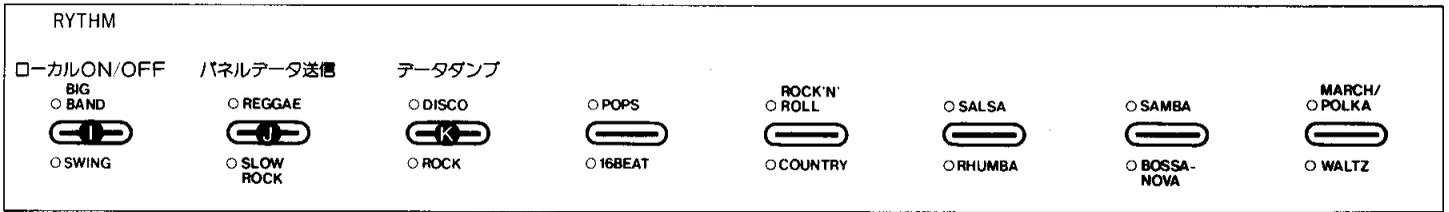
(モード1)

1. MIDIモードのボタンを押しながら③「ミュージックプログラマー送信モード1」のボタンをON。パイプオルガンのランプが点灯。
2. スレーブにしたキーボードのクロックをEXT.(エクスターナル)クロックにし、さらにリズムとシングルフィンガーコードをセット。
3. ミュージックプログラマーのプレイバックをON。演奏をスタートさせると同時に相手のキーボードも演奏をはじめます。

(モード2)

1. MIDIモードのボタンを押しながら④「ミュージックプログラマー送信モード2」のボタンをON。バイオリンのランプが点灯。
2. スレーブにしたキーボードのクロックをEXT.(エクスターナル)クロックにし、さらにリズムとフィンガードコードをセット。
3. ミュージックプログラマーのプレイバックをON。演奏をスタートさせます。

☆プレイカードのデータを送信する時、スレーブのキーボードからはそのキーボードのリズムが鳴ります。また、スレーブのキーボードからオブリガートの音はでません。



③ ミュージックプログラマー送信モード3<プレイカード・データ送信>

ミュージックプログラマーに記憶させた演奏データやプレイカードのデータをパート別に違うチャンネルで送信します。③④とは異なり、ベースやコードもキーノートとして送信するので、自動伴奏機能を持たないシンセサイザーなどにオートベースコードのパターンを演奏させることができます。

操作

- MIDIモードのボタンを押しながら③「ミュージックプログラマー送信モード3」のボタンをON。トランペットのランプが点灯。
- スレーブにしたキーボードの受信チャンネルを、鳴らしたいパートのチャンネルに設定します。
- ミュージックプログラマーのプレイバックON。演奏をスタートさせます。

☆各パートの送信チャンネルは次のとおり(変更はできません)。

- CH1—オーケストラ
- CH3—ベース
- CH4—(プレイカードのデータを送信する場合)オブリガート
- CH5—コード

④ PSエクスクルーシブモード

標準MIDIで送信・受信できるプログラムチェンジ、コントロールチェンジはオーケストラのみですが、このモードにするとPCR-800のすべてのパネル状態を以下のようにチャンネル別のプログラムチェンジ、コントロールチェンジとして送信・受信できます。

操作

- MIDIモードのボタンを押しながら④PSエクスクルーシブモードのボタンをON。ビッグバンドのランプ点灯。

☆各パートのチャンネルは次のとおり(変更はできません)。

- CH1—オーケストラ(音色、サステイン・ボリューム)
- CH3—ベース(ボリューム)
- CH5—コード(ボリューム)
- CH15—リズム(リズムの種類、ボリューム)
- CH16—その他(テンポ、トランスポージャー他)

6 キーノートオンリーモード

マスターとスレーブの間で、コントロールチェンジ、プログラムチェンジの情報を送・受信したくない時に使います。キーノート、クロック以外のデータは一切送信・受信しません。

操作

- MIDIモードのボタンを押しながら⑤「キーノートオンリーモード」のボタンをON。クラリネットのランプが点灯。

H MIDIクロックINT./EXT.切り換え

たとえばRXとポータートーンのようにリズム機能を持った2台の楽器を接続する時、そのテンポを同期させるためには、マスターのクロックをINT.(インターナル)、スレーブの方をEXT.(エクスターナル)にする必要があります。

操作

<INT.→EXT.>

MIDIモードのボタンを押しながら⑥「MIDIクロックINT./EXT.切り換えモード」スイッチをON。サキソホンのランプが点灯。

<EXT.→INT.>

EXT.にする時と同じ操作でランプを消灯させます。

I ローカルON/OFF

このモードにすると、PCR-800本体からは鍵盤を押しても音が出なくなり、その演奏データを送信して接続しているキーボードのみが発音します。

操作

- MIDIモードスイッチを押しながら、リズムセレクターの⑦「ローカルON/OFF」のボタンをON。ビッグバンドのランプが点灯するとローカルONの状態。

J パネルデータ送信

PCR-800どうしをMIDI接続している時、一瞬でパネル状態を送ることができます。

操作

- MIDIモードのボタンを押しながら⑧「パネルデータ送信モード」スイッチをON。押した瞬間に2台のキーボードのパネル状態は同じになります。

K データダンプ

ミュージックプログラマーに記憶させた演奏データを、もう1台のPCR-800のRAMに転送することができます。

操作

- MIDIモードのボタンを押しながら⑨「データダンプモード」のボタンをON。押した瞬間に演奏データが転送されます。

故障と誤りやすい現象

現象	原因	解決法
電源スイッチを入れたとき、ポツンと音がする。	電気が流れたため。	ご心配いりません。
電源スイッチをす早くON、OFF、ONしたら音がでない。	ONにして、パイロットランプが点灯する前に電源を入れなおしたため。	もう1度OFFにしてからONしてください。
オーケストラ音色セレクターで選んだ音色とは別の音色がでる。	①上下の選択をしていない。 ②オートベースコードを使っている時、伴奏用の鍵盤で弾いている。	①12ページの説明を読んで操作もれがないか確認してください。 ②オートベースコードを使っている場合、オートベースコードの音色は、オーケストラの音色セレクターで選んだ音色とは関係ありません。
鍵盤を8音押しても7音しかでない。	最高7音しかできません。また、オートベースコードを使用している場合3音、さらにデュエットをONすると2音しかできません。	先に押えた音が優先します。
リズムの音がでない。	①スタートボタンがどちらも押されていない。 ②シンクrostartボタンを押して、オートベースコード用鍵盤部を押していない。 ③リズム音量レバーが最小になっている。 ④MIDIクロックがEXT.になっている。	①②③13ページの説明を読んで操作もれがないかどうか確認してください。 ④23ページの説明を読んでINT.にしてください。
リズムセレクターで選んだリズムとは別のリズムが出る。	上下の選択をしていない。	13ページの説明を読んで操作もれがないかどうか確認してください。
オートベースコードの音が出ない。または、リズムにのらない。	①シングルフィンガーコード、フィンガードコードのボタンがどちらも押されていない。 ②オートベースコード用鍵盤をおさえていない。 ③オートベースコード音量レバーが最小になっている。 ④ミュージックプログラマーの再生をしている。	①②③14～17ページの説明を読んで、操作もれがないかどうか確認してください。 ④ミュージックプログラマーの再生時は、オートベースコードを使用することはできません。
オートベースコードで伴奏しているとき、指を変えてもコードが変わらない。	オートベースコード用鍵盤を指を離さずに弾いているため。	オートベースコード伴奏では、コードチェンジをするとき、1度指を離すようにしてください。
デュエットの音が出ない。	オートベースコードを使用していない。	12ページの説明を読んで、操作もれがないかどうか確認してください。
コードを押し変えたらデュエットの音が再発音する。	デュエット音は、オートベースコードと連動しているため。	ご心配いりません。
ミュージックプログラマーに演奏したとおりに録音されない。	メロディーは単音しか録音されません。	最高音が優先されます。

	現象	原因	解決法
M D 接続時	スレーブのキーボードとリズムが同期しない。	スレーブのクロックがEXT.になっていない。	スレーブのクロックをEXT.にしてください。 (23ページの説明をお読みください。)
	ミュージックプログラマー送信モード1・2・3で、スレーブのキーボードから音がでない。	送信チャンネルと受信チャンネルが、同じになっていない。	チャンネルを合わせてください。 (23ページの説明をお読みください。)
	ミュージックプログラマー送信モード1・2・3で、演奏途中でストップしたらスレーブが鳴りっぱなしになる。	スレーブのオートベースコードのメモリーがONされているため。	スレーブのオートベースコードスイッチ、またはメモリースイッチをOFFにしてください。
	ミュージックプログラマー送信モード1・2・3で、スレーブのオートベースコード音がおかしい。	①シングルフィンガーコード、フィンガードコードのスイッチを押していない。または誤っている。 ②モード3の時、オートベースコードのスイッチがONになっている。	23ページの説明を読んで操作もれがないかどうか、確認してください。

●プレイカードシステムを使用する場合

現象	原因と解決法
曲が再生されない。	カードリーダーが、データを完全に読みとっていません。もう一度セットしなおして、インジケータランプの点灯と信号音を確認してください。
伴奏がきこえない。	オートベースコード用音量が最小になっている。音量を上げましょう。
リズム音がきこえない。	リズム用音量が最小になっている。音量を上げましょう。
本体でセットした音色やリズムで曲が再生されない。	曲の再生前のリズム、音色は無効です。カードそ入後のみ音色やリズムを変えることができます。
フリーテンポ、メロディ練習で演奏しているとき、鍵盤を同時に3音押しても2音しかでない。	プレイカードシステムで演奏しているとき、鍵盤では同時に2音までしかでないようになっています。先に押えた2音が優先されます。(デュエット使用時には1音しかできません。)
プレイカード演奏をしているとき、鍵盤で鳴らした音色が変化してきこえる。	鍵盤を押すタイミングによって、一瞬音色が変化してきこえることがありますが、心配いりません。
マニュアル伴奏のとき、鍵盤から手を離すと伴奏の音が消えてしまう。	ランプの指示とちがうコードを押えた時、鍵盤から手を離すと伴奏の音も止まります。
コード練習で、正しいコードを押えたのに曲が先にすすまない。	コードを押し変えるとき、鍵盤から指を離さずに弾いているため。いったん鍵盤から指を離すようにしてください。

AUTO BASS CHORD <input type="checkbox"/> VARIATION <input type="checkbox"/> OFF <input checked="" type="checkbox"/> SINGLE FINGERED <input type="checkbox"/> FINGERED MIN MAX <input type="checkbox"/> VOLUME		RHYTHM ○ ○ ○ ○ <input type="checkbox"/> BIG BAND <input type="checkbox"/> REGGAE <input type="checkbox"/> DISCO <input type="checkbox"/> ROCK N ROLL <input type="checkbox"/> SALSA <input type="checkbox"/> SAMBA <input type="checkbox"/> MARCH/POLKA <input checked="" type="checkbox"/> SWING <input type="checkbox"/> SLOW ROCK <input type="checkbox"/> ROCK <input type="checkbox"/> 16BEAT <input type="checkbox"/> COUNTRY <input type="checkbox"/> RHUMBA <input type="checkbox"/> BOSSA-NOVA <input type="checkbox"/> WALTZ MIN MAX SLOW FAST <input type="checkbox"/> VOLUME <input type="checkbox"/> TEMPO		ORCHESTRA <input type="checkbox"/> DUET <input checked="" type="checkbox"/> JAZZ ORGAN <input type="checkbox"/> PIPE ORGAN <input type="checkbox"/> VIOLIN <input type="checkbox"/> TRUMPET <input type="checkbox"/> PICCOLO <input type="checkbox"/> PIANO <input type="checkbox"/> ELECTRIC PIANO <input type="checkbox"/> HARP/CHORD <input type="checkbox"/> VIBES <input type="checkbox"/> GUITAR <input type="checkbox"/> BANJO <input type="checkbox"/> MUSIC BOX <input type="checkbox"/> SYMPHONIC <input type="checkbox"/> SUSTAIN 1 <input type="checkbox"/> SUSTAIN 2 <input type="checkbox"/> CLARINET <input type="checkbox"/> SAXOPHONE	
--	--	---	--	---	--

恋の子感

作詩 井上陽水
作曲 玉置浩二

SWING F G Am F Em7

JAZZ ORGAN

Dm E7 F G

なぜ - なぜ - あな

Em7 Am F G Em7

たは - きれ - いに - なり - たいの

E7 F G Em7 Am

その - めを - だれ - もが - みつ

F G Dm E7 Am

めて - くれ - ない - の - よ るは

G F Em7 F

↑ FILL IN

きま - まに - あな - たを - おど

Dm E7 Am G F

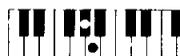
らせ るだ - け - ↑ FILL IN こ いの - よか - んが

F Em7 Dm7 Em7 Am

ただ - かけ - ぬける だけ -

日本音楽著作権協会(出)許諾第8570796-501号
©1984 by Kitty

☆コードのおさえ方

F  G  Am  Em7  Dm  E7 

Dm7 

仕様

■鍵盤

一段鍵盤49鍵C₁~C₅

■オーケストラ

音色セクター

ジャズオルガン—ピアノ

パイプオルガン—エレクトリックピアノ

バイオリン—ハーブシコード

トランペット—ビブラオン

ピッコローギター

オーボエ—バンジョー

クラリネット—オルゴール

サキソホン—シンセ

音色コントロール

デュエット

サスティン1

サスティン2

ステレオシンフォニック

セレクトスイッチランプ

■リズム

リズムセクター

ビックバンド—スイング

レゲエ—スローロック

ディスコーロック

ポップス—16ビート

ロックンローラー—カントリー

サルサー—ルンバ

サンバー—ボサノバ

マーチ/ボルカー—ワルツ

リズムコントロール

シンクロススタート

スタート

ストップ

イントロ/エンディング

テンポランプ

テンポコントロール

リズムボリューム

フィルイン

■オートベースコード

フィンガードコード

シングルフィンガーコード

オフ

バリエーション

ボリューム

■ミュージックプログラマー

レコード(録音)

プレイバック(再生)

ストップ

■プレイカードシステム

オートプレイ(プレイカード演奏)

フリーテンポ

メロディーキャンセル(メロディ練習)

コードレッスン(コード練習)

ベース/コードキャンセル(マニュアル伴奏)

ランプキャンセル(ランプ切)

フレーズリピート(繰り返し演奏)

ガイドランプ

■その他コントロール

パワースイッチ

パイロットランプ

マスターボリューム

トランスポーター(▼、▲)

ピッチボリューム

MIDIモード

マイクボリューム

■付属端子

HEADPHONES JACK

SUSTAIN JACK

EXP. PEDAL JACK

MIDI IN-OUT JACK

AUX. OUT L・R JACK

DC(9V-12V) IN JACK

MIC. IN JACK

■メインアンプ

2.4W×2

■スピーカ

12cm(4Ω)×2

■定格電源

DC 9V-12V: 単1乾電池6個

: 電源アダプター〔PA-4〕

■消費電力

電源アダプター使用時: 10W

乾電池使用時: 5W

電池寿命: 通常演奏で最低

10時間以上

■外装

本体材質: スチロール樹脂

仕上げ: アクリルラッカー塗装

間 口: 982mm

奥 行: 281mm

高 さ: 94mm

重 量: 6.4kg

■付属品

プレイカード S.S.ブック

電源アダプター〔PA-4〕

譜面立て

和文シート

PORTATONE PCR-800

Date: 1985.5.28

Version: 1.0

MIDIインプリメンテーションチャート

ファンクション…	送 信	受 信	備 考
ベーシック 電源ON時 チャンネル 設定可能	1 チャンネル ○	1 チャンネル ○	
モード 電源ON時 メッセージ 代用	モード 3 36-84 × 36-84 *****	モード1 ポリ/モノ ×	
ノート ナンバー 音 域	36-84 *****	36-84 36-84	
ペロシティ ノート・オン ノート・オフ	×90H、V=64 ×90H、V=0	× ×	
アフター キー別 タッチ チャンネル別	× ×	× ×	
ピッチ・ベンダー	×	×	
64 コントロール チェンジ	○	○	サステイン
プログラム チェンジ 設定可能範囲	○(0~15) *****	○(0~127) (0~15)	
エクスクルーシブ	○	○	
コモン ソング・ポジション ソング・セレクト チューン	× × ×	× × ×	
リアル クロック タイム コマンド	○ ○	○ ○	
その他 ローカル ON/OFF オール・ノート・オフ アクティブ・センシング リセット	× × ○ ×	○ ○ ○ ○	
備考			

モード 1 : オムニ・オン、ポリ モード 2 : オムニ・オン、モノ
 モード 3 : オムニ・オフ、ポリ モード 4 : オムニ・オフ、モノ

○ : あり
 × : なし

アフターサービスと保証

サービスのご依頼は、お買い上げ店へお申し付けください。

■本機の保証は、保証書によりご購入日から満1年です。尚、突合、フレンジなどによる保証の区別はいたしません。(日本国内のみ有効)

■保証期間中の1年を過ぎましても有償にて責任をもってサービスを実施いたします。尚、補修用性能部品の保有期間は製造打ち切り後最低8年となっております。また、保証期間中の修理などアフターサービスについてご不明の場合は、お買い上げ店か右記、お近くのサービス網宛お問い合わせください。

■お買い上げ店による修理調整

故障の場合は、直接お買い上げ店にご連絡ください。

責任を持って修理調整を行います。

■サービスを依頼される前に

ご使用中に「故障ではないか」と思われましたら、まず本書の「故障と取りやすい現象」の項をいっぺんお読み頂きお確かめください。(ご依頼をお受けして点検いたしますと故障でない場合でも点検料を申し受けま

すのでご注意ください)

■サービスのご依頼

サービスをご依頼なされる時は、お名前、ご住所、電話番号をハッキリお知らせください。またお勤めで昼間ご不在の方は、お勤め先の電話番号、もしお連絡方法をお知らせください。(楽器の具合をもう少し詳しくおたずねしたいときや、万が一やむを得ない事情によって、お約束を変更しなければならぬようなときにお客さまにご迷惑をおかけしないですみます)

YAMAHA電気音響楽器サービス拠点

(修理受付および修理品お預り窓口)

東京電音サービスセンター	〒211 川崎市中原区木月1184 TEL.044-434-3100
新潟電音サービスステーション	〒950 新潟市万代1-4-6 シルバーホールビル2F TEL.0252-43-4321
大阪電音サービスセンター	〒963 吹田市新芦屋下1-16 千里丘センター内 TEL.06-877-5262
四国電音サービスステーション	〒760 高松市丸亀町8-7 日本楽器高松店内 TEL.0878-22-3045
名古屋電音サービスセンター	〒454 名古屋市中川区玉川町2-1-2 日本楽器名古屋流通センター TEL.052-652-2230
九州電音サービスセンター	〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4 TEL.092-472-2134
北海道電音サービスセンター	〒065 札幌市東区本町1条9-3 TEL.011-791-3621
仙台電音サービスセンター	〒983 仙台市卸町5-7 仙台卸共同配送センター3F TEL.0222-36-0222
広島電音サービスセンター	〒731-01 広島市安佐南区西原2丁目27-39 TEL.082-874-3787
浜松電音サービスセンター	〒432 浜松市東伊場2-13-12 TEL.0534-56-9211
(本社)	
電音サービス部 技術課	〒430 浜松市中沢町10-1 TEL.0534-65-1111

*住所及び電話番号は変更になる場合があります。

本 社	〒430 浜松市中沢町10-1 TEL.0534(65)1111
東京支店	〒104 東京都中央区銀座7-9-18/パールビル TEL.03(572)3111
大阪支店	〒542 大阪市南区南船場3-12-9/心斎橋プラザビル東館 TEL.06(251)1111
名古屋支店	〒460 名古屋市中区錦1-18-28 TEL.052(201)5141
九州支店	〒福岡市博多区博多駅前2-11-4 TEL.092(472)2151
北海道支店	〒064 札幌市中央区南十条西1-4/ヤマハセンター TEL.011(512)6113
仙台支店	〒980 仙台市大町2-2-10/住友生命仙台青葉通ビル TEL.0222(22)6141
広島支店	〒730 広島市中区紙屋町1-1-18 TEL.082(244)3744
浜松支店	〒430 浜松市鍛冶町321-6 TEL.0534(54)4116

